

希望

チューリッヒ日本人学校便り

平成 29 年 1 月 30 日発行

第 36 号

発行人 校長 鈴木史良

今年はお組の勝利！

—— 盛り上がった校内かるた・百人一首大会 ——

1月27日(金)の5、6校時に、チューリッヒ日本人学校恒例の「かるた・百人一首大会」を開催しました。午後13時20分に昼食を終えた子どもたちが体育館に集まり、赤組、白組に別れて取り札数を競い合いました。どの子も赤や白のハチマキを締め、気合は十分。児童生徒会執行部による開会式後、まずは低学年による「かるた」をおこないました。一人ひとりが取った枚数を競う個人戦だけでなく、赤組、白組対抗の団体戦も兼ねているため、

中学年以上の子どもたちは、白組も赤組も低学年を囲むようにして自分と同じ色を応援しました。戦いは小学部1年生2人の赤チームと1、2年生姉弟の白チームとの一騎打ちでした。日頃からよく練習していたせいか、札が読まれた瞬間、敷かれたマットに

ダイビングするように勢いよく取っていた姿が印象的でした。「かるた」の終了後、引き続き「百人一首」をおこないました。小学部中学年から中学部3年生までの子どもたちが、百首の和歌に挑戦。中学年、高学年、中学部と、3つのグループに分かれ、赤組、白組に分かれて取り札の前に相(あい)対しました。今度は低学年の子どもたちが応援です。子どもたちは眼下に並べられた取り札を真剣な目で見つめ、ぴりぴりした緊張感が伝わってきました。

「春過ぎて 夏来にけらし〜」、「いにしへの 奈良の都の〜」、「秋の田の刈穂の庵の〜」など、つぎつぎに詠みあげられる歌に、子どもたちも素早く反応していきました。取ろうと思っていた札を先に取りられたときの悔しさが顔に表れたり、次には自分が覚えていた札を取ったときのうれしさが満面の笑みになったりと、状況が目まぐるしく変化していきました。暗記している和歌は、上の句を詠み始めた瞬間に、「はい。」と取り札に手をつくという見事なわざを披露してくれた子どももありました。得手、不得手はありますが、幼少期から正月に日本の古典文学にふれ、慣れ親しむことは日本語力を養う力になると思います。



元気いっぱいな低学年の取り合い

かるた・百人一首大会結果

＜団体の部＞	優勝	白組 (平均31.8枚)		
	準優勝	赤組 (平均29.1枚)		
＜個人の部＞	低学年「かるた」の部	優勝	R. Sさん	
	中学年「百人一首」の部	優勝	T. Tさん	
	高学年	〃	優勝	S. Kさん
	中学部	〃	優勝	I. Hさん

もちつき体験学習

緊張した「かるた・百人一首大会」の後は、もちつき体験学習をおこないました。全員であつあつに蒸されたもち米を観察した後、臼の中に入れて杵でこねる作業です。十分こねられた後は杵で突きました。お米の粒がいつの間にかなくなり、もちもち状になりました。もちの出来上がりです。つきあがったもちをちぎって丸もちをつくりました。子どもたちは餅粉の上で形を整え、お盆の上に並べました。きなこをまぶしたり、のりと醤油をつけたりして食べる出来立てのもちの味は最高です。大満足の子どもたちでした。

こども医療メール相談のお知らせ

在外教育施設（日本人学校、補習授業校）に通学するお子様の保護者宛に、在外教育施設教員向け研修会で健康分野を担当されている田中医師（小児科）より、「こども医療メール相談」開設の連絡がございましたので、お知らせいたします。ただ、急病や病気の種類により対応が困難な場合があること、医療行為ではないため現地での診療アドバイスとしてご利用いただきたいとのことです。

対象： 原則としてお子様の健康問題(個人情報遵守)

担当者： 田中孝明医師（川崎医科大学小児科）

福島慎二医師（東京医科大学渡航者医療センター）

テンプレート（利用時に使用）：

- ・ 相談者のお名前
- ・ お子様の年齢
- ・ 学校名
- ・ 滞在目的
- ・ 現地入国及び帰国予定年月日
- ・ 帰国後の居住地
- ・ 相談内容（画像添付可）

2月の主要予定

ホームページでの公開はしておりません。ご了承ください